

うえだ 環境市民会議 News

第33号
ニュース

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行：うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16

上田市生活環境課内

電話：0268-23-5120

FAX：0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

環境問題についていっしょに 考えましょう

うえだ環境市民会議議長 村山 顕

今年の梅雨は、日本に大きな水害をもたらし、人々の尊い命を奪っていきました。各地に起きる豪雨災害も温暖化の影響ではないかとも言われています。地球規模で見ても近年、南米をはじめアフリカでも中国でも、かつてほとんど雨が降ったことも水害などにあつたことのない地域が水害にあつたというニュースが目につくようになってきました。このように気象の変化の一つの原因に地球温暖化がいわれ、その原因の最たる物が、人間の活動によって排出されるCO₂などの温室効果ガスによるものといわれています。そのCO₂を中心にいかに減らしていくか、新たにこれ以上地球上に排出していかないかが問われています。

一人一人の力は小さくとも、みんなで力を合わせれば大きな力となります。市民のみなさん、「うえだ環境市民会議」に

ご参加ください。そして、共に考え行動していきましょう。

エネルギーの地産地消も 「夢」でないかも？

うえだ環境市民会議副議長 安井 啓子

最近、二つの環境講演会に参加しました。どちらも地球温暖化に歯止めをかけ、CO₂の排出を確実に減らすために自然エネルギーを地域にどう普及させていくかが共通したテーマでした。今後は火力や原子力発電に代表される大規模発電から地域の自然や特徴を生かした小規模地域分散型のエネルギーの地産地消へ転換すること。その必要性や可能性が語られました。ドイツやデンマークなど先進国の事例はよく目にしますが、長野県内でも化石燃料から自然エネルギーへの転換に向けチャレンジしている所がいろいろあります。大きな変化も足元の一步からです。上田市でも平成21年度上田市地域新エネルギービジョンが策定されました。

身近な実践から学び、私たちの地域でできることは何か？まちづくりの視点を踏まえ、地域自然エネルギーの青写真が描けたらいいなと思いました。

最後に、今年度うえだ環境市民会議の副議長をさせていただくことになりました。微力ですが、市民のみなさんや関連団体のご協力をいただき、ご一緒に活動を進めていきたいと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

自然エネルギー講座をひらきました

六ヶ所会議 in うえだ代表 藤川まゆみ

<六ヶ所会議 in うえだ>では6月12日にバイオディーゼル発電エンジニアの小田切隆一さんを迎えて自然エネルギー講座をひらきました。さくら国際高校の木造校舎2年B組の教室でなつかしい机とイスに座っての講座です。

始めに一人ずつ自転車をこいで電球とLEDを点けてみましたがLEDの方が断然消費電力が少ないことを体と汗で(笑)体験できました。また、当日は冴えわたる晴天でしたのでソーラークッカーという道具で太陽の熱を集めて湯を沸かしフェアトレードのコーヒーを販売しました。人力と太陽熱、シンプルなエネルギーで会は始まりました。

前半は自然エネルギーの概要、地域の資源を活用した小規模発電と発電で出る熱の活用を高めることがこれからの展望ではないか、各地の実践、上田での可能性といったお話。後半の質疑応答では小

田切さんと参加者にとどまらず参加者同士でも熱いやり取りがあり関心の高さを感じました。

デメリットのないエネルギー・発電方法はないそうです。「太陽光、風力、小水力、地熱、バイオガス・・・どのエネルギーが『一番』効率がよく、経済的で、環境にもいいのか？」と短絡的に考えてしまうのでは今までの社会のあり方と変わりがない。「わたしたちが住む地域にはどんな資源があるのか。そして地域にあるもので暮らすことを目指す。」というところから始めればいいのかと思いました。

上田は日照時間が国内の市区町で12位だそうです。山の方へ行けば風も強い。川もあります。山の資源も豊富です。そしてこの日集まった方々の関心の高さ！

具体的な一歩が始まろうとしています。今後も講座や映画会をひらいていろんな方々とつながって、上田のわたしたちにできることを探そうと目論んでいます。また会にご参加ください。お待ちしております。

▼自然エネルギー講座の様子

